



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@ma1.seikyō.ne.jp http://ha1.seikyō.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori

2003年の謀略

ニセメール事件と米国産“ガセネタ”

国会では民主党永田議員の武部勤自民党幹事長次男にからむメール問題で、民主党は全く意気消沈してしまい、防衛施設庁談合事件、マンション等耐震構造偽装事件、米産牛肉輸入問題、ライブドア事件など政権の腐敗、ゆがみである「4点セット」の追求が吹っ飛んでしまった感がある。しかも、現在、日本の将来に大きな影響を与える米軍再編問題、日米軍事同盟の強化が重大な局面を迎えている時に、全く内向きの話ばかりが横行している。

小泉首相は永田議員の質問に、すぐさま「ガセネタだ」と断定した。そのすばやさや自信あがりな態度には、へえ？と思った。あたかも事前に察知していたかの雰

囲気が感じられたから。誰が何のために、どのように動いたのか、きちんと検証されるべきだろう。

おかげで上記の「4点セット」プラス、日米軍事同盟問題の追求がおろそかにされれば、被害を被るのは私たち庶民ひいては世界中の庶民なのだから。

これに関連して思うのは、実は小泉首相は3年前

にもっと大きなガセネタをつかまされたのに、何ら反論もせず、「懲罰動議」も出さず、「裁判に訴える」こともしていないという事実だ。

2003年2月、アメリカのパウエル国務長官(当時)は国連総会で、イラクが大量破壊兵器を持っているとの“証拠”を写真を使って説明した。日本政府はそれを支持し、これを大変心強く思ったブッシュ米大統領は、国連での新たな決議は必要なくな

ったと、同年3月19日イラクへの空爆を開始するテレビ演説をした。

ブッシュ大統領は演説で述べている。「米国および同盟国は、大量破



平和を歌おう！(ピースライブ、3月12日)

壊兵器の武装解除のために、

武力行使を行う権利がある。攻撃の正当性が問題なのではない。我々の意志が問題だ。」「危険は明らかだ。テロリストたちは、イラクから入手した生物、化学兵器あるいは核兵器を使い、これまで表明してきた意図を達成し、米国や他の国の何百、何十万人もの罪もない国民の命を奪うかもしれない。」

そして、3月20日未明バグダッドへの猛烈なミサ

イル爆撃が始まったのだ。その結果、多数の子供や女性を含む数万人のイラク人が殺され、その何十倍もの人々がけがをし、家を失い、仕事を失い、3年後の現在も、外国軍のイラク占領は続き、すべての秩序を破壊されてしまったイラク国内は内戦の様相をていしている。

我が自衛隊は憲法違反の海外派兵によって、しっかりとその片棒を担いでいる。ところが、このパウエル長官の「証拠写真」がまっ赤な偽物で、まさにガセネタ中のガセネタであったことが発覚し、長官は辞任せざるを得なくなった。04年10月米中央情報局＝CIA調査団は核、化学、生物兵器のいずれも存在しなかったとする報告書を議会に提出。05年3月米独立調査委員会はイラク関連情報がCIAの情報源によるでっち上げだったと報告したのである。

すり替えられた理由にも無風状態の日本

ついに昨年12月には、ブッシュ大統領自身、ワシントンでの演説で、大量破壊兵器に関する情報が誤りだったと言及せざるを得なかったが、「フセイン政権が脅威だった」と原因をすり替え、戦争を正当化し、3年目の3月18日の演説では、フセイン政権の打倒で、「イラク人は今自由の中で生活している」「米国と世界はより安全になった」とし、「完全勝利まで駐留する」と述べた。しかし、イラク政策の「失敗」は歴然、ブッシュ大統領の支持率は「9.11」直後の90%から30数%に低落している。

ところが小泉首相は、このニセ情報を全く意に介さず、「謝罪広告」を出す要求もしていない。「フセインが自ら潔白を証明しなかったのが悪い」という不思議な理由からだ。もっと不思議でならないのは、永田議員のニセメール問題には、大きな関心を寄せる人々が、イラク問題のニセ情報にはあまり憤慨していないように見えることだ。

先にやや長めに引用したブッシュ大統領の演説はその根拠がでっち上げであったことがわかった現在、いかに空々しく、手前勝手なものであるかが読

みとれるだろう。しかも「……となるまえに」とか、「…かもしれない」という不確定な物言いで、攻撃を始めているのであって、いかなる国際法にもそのような攻撃の正当性を見つけることはできない。つまり、「イラク戦争」は謀略による侵略戦争以外の何ものでもない。そして、私たち日本人も米国を支持し、自衛隊を派兵したことによって、イラク国民への加害者になっているということをはっきりと認識する必要がある。

歴史上謀略事件は数あるが、74年前、中国東北部で起こった「満州事変」はその最たるもの、旧日本軍のでっち上げ事件であった。当時の日本は天皇制政府のもと言論統制により、すべての報道は真実を伝えなかった。国民も政府発表を信じて取り返しのつかない侵略戦争へと突き進んでいった。今、民主主義のもとで、言論の自由、報道の自由がありながら、この無風状態はいったいなんだろう。

「リトルバーズ」から

昨年高知でも上映された綿井健陽さんのドキュメンタリー「リトルバーズ」は、爆弾が降り注ぐ下に暮らすイラクの人々の日常を映し出している。爆撃によって生身の人間が血を流し、息絶えていき、悲しみ泣き叫ぶ家族の姿がある。

「リトルバーズ」の一場面。「HOW MANY CHILDREN HAVE YOU KILLED TODAY? (お前たち今日何人の子供を殺したんだ!)」「人間の盾」としてイラクにとどまった女性が一人で米兵に向かって叫ぶシーン。

「お前たち」の中には米軍だけでなく、「ブッシュとお前＝日本政府」、そして「私たち＝日本人」もはっていると綿井さんは書いている。

流される日常の中で、テレビの評論を見て納得するのではなく、立ち止まって、1枚の映像からでも、爆弾の下の人々に思いをはせることによって、「彼ら」侵略者とは別の私たちの未来を創っていかねばならない。

副館長 玉置啓子